

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



茶指導販売課 菊川 響

今年は、エルニーニョ現象により11月（冬季）の平均気温が例年よりもやや高くなることが予想されています。

暖冬になると茶樹の休眠が浅くなり、十分な耐寒性が得られずに、急な低温による寒害の被害を受けやすくなります。早い時期から保温対策を行い、被害を受けにくい茶園を作りましょう。

寒害の種類

赤枯れ	真冬の低温が原因で起こり、葉に赤褐色斑が生じ、葉が枯死します。マイナス4〜5℃で葉や茎が凍結し、被害が大きい場合、葉全体が枯死することがあります。
青枯れ	寒風や土壤凍結などによって幹の一部が凍結し、水分が補給されなかったり、乾いた強風により蒸散が促進されたりすることで水分不足になり、枯れる被害です。
落葉	低温下で弾力性の低下した茶葉に寒風が当たり、葉柄部分にヒビが入ることで葉が落ちる被害です。
裂傷型凍害	初冬から春先に気温の急激な低下により、枝幹の樹皮に亀裂（幹割れ）が起こる被害です。枝の細胞が凍結し、水分の通りが悪くなることで起こります。

寒害対策

これから本格的な冬を迎えるにあたり、寒害を受けないように茶園の点検や排水、保温対策を進めましょう。特に、病害虫被害を受けた茶園や葉層の薄い茶園、幼木園などの樹勢の弱い茶園では事前対策を万全に行う必要があります。株元にわらや敷き草等を施用すると、地温低下の抑制や保水、保肥効果が得られます。防風垣の設置も効果的です。

病害虫の防除

チャトゲコナジラミとカンザワハダニの防除時期です。葉裏に寄生するため、葉をめくって発生を確認し、必要に応じて防除を行ってください。